

令和6年度決算を認定

9月定例会では、令和6年度決算の認定議案3件が提出され、いずれも全会一致で原案のとおり認定しました。

6年度の一般会計の決算規模は、歳入総額は前年度比2・4%増の1630億8101万円余り、歳出決算額は、対前年度比2・2%増の1618億3260万円余りとなりました。

決算収支は、市税などが当初の想定ほど伸びず、厳しい財政収支となりましたが、決算対策として財政調整基金や減債基金を取り崩したことにより、実質収支は5億4445万円余りの黒字となり、基金に積み立てました。

税収等の歳入の大幅な増加が見込めない中、扶助費の増加や公債費の高止まりにより、厳しい財政状況が続くことが想定されることから、決算状況の分析・評価、財政状況について質疑が行われました。

令和6年度決算について

財政健全化と持続可能な自問

治体経営に向けた市長の決意について聞く。

持続可能で柔軟な予算編成が可能となる財政構造への転換は、私が果たすべき大きな責務の一つである。本市に暮らす皆さまの生活を守りながら、将来にわたって持続可能な行政サービスを提供し、さらに本市の発展を目指す、この3つのバランスをしっかりと取りながら進めていくことが重要だと考へている。

予算決算常任委員会（分科会）における質疑

基準財政需要額に関し、令和5年度と比較して約20億円増えている要因は何か。

主な要因は高齢化による扶助費の増加で、扶助費は一般財源部分が交付税の対象となるため基準財政需要額を押し上げている。

加えて、近年は、職員給与費の増加や物件費の物価高騰分も上乗せされており、これらが総じて増加の要因となっている。

校内教育支援センター事業費について、校内サポートルームの設置の効果について聞く。

令和6年度3月末時点では、サポートルームの利用生徒数は125人である。学校には行けるが教室に入りづらいなど、安心して学べる居場所を求める生徒が利用できており、一部では欠席日数が減り登校日数が増えた生徒もいる。

正式な日程は、11月下旬に開催予定の議会運営委員会で決定されます。

南海トラフ地震に備えた災害対策事業に關し、水道管路の更新率について聞く。

現在、管径が400ミリメートル以上の基幹管路を中心に耐震化を行っており、工事費用が高いため、投資額に対しての更新率は低くなっているが、今後、管径の細い管路の耐震化に移行すれば、更新率は上がつてくる。

介護保険事業における基金に関し、基金残高が黒字となつてるのであれば、介護保険料の減額はできないのか。

まさに私が中学生の頃から自分に聞いかけってきた言葉でした。

休憩室



12月定例会の日程について

12月定例会の日程のめどに関しては、開会予定日は12月4日（木）で、閉会予定日は12月23日（火）となっています。

正規な日程は、11月下旬に開催予定の議会運営委員会で決定されます。

（議会広報広聴委員 藤木真由美）